

第11回レスキューロボットコンテストにおける 消防庁長官賞の授与について

消防技術政策室／消防研究センター

1. レスキューロボットコンテストの開催について

平成22年8月6日（土）～7日（日）に、神戸サンボーホール（兵庫県神戸市）で第11回レスキューロボットコンテストが開催されました（消防庁特別共催）。

消防庁では、自治体消防制度60周年の記念事業として第8回（平成20年）に初めて消防庁長官賞を設け、その後も継続して、先進的な科学技術の導入等により要救助者の負担軽減と効率的な救助を実現したチームに対して表彰を行い、今後の消防防災活動を支えるレスキューロボットの研究開発・実用化の推進に寄与しています。

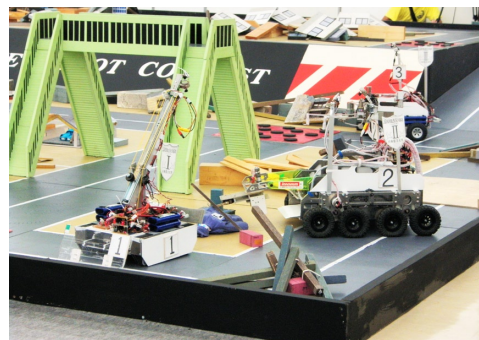


第11回レスキューロボットコンテストポスター

2. レスキューロボットコンテストとは

日本におけるレスキュー技術の研究については、平成7年の阪神・淡路大震災から得られた教訓を踏まえて、救命救助機器の技術的課題に関する様々な検討が行われました。この中で、ロボット技術の研究は活発になり、今日までに大きく発展しました。それらロボット技術の中からは、今回の東日本大震災における福島原子力発電所事故の調査活動に活用されるものも現れたところです。

レスキューロボットコンテストは、参加者が製作したロボットでコンテストの課題（ガレキに埋もれた要救助者の救助）に取り組むことで、レスキュー活動の重要性や難しさについて自ら考えとともに、将来的にレスキュー機器の開発に携わる青少年を育成することや、防災やレスキューの必要性について広報することを目的としています。



要救助者（ダミー人形）の救出にあたる
「SHIRASAGI」1号機（左）、2号機（右）

3. 消防庁長官賞受賞チーム

今回の消防庁長官賞は、兵庫県立大学 ロボット研究会が製作した「SHIRASAGI」が受賞し、コンテスト本選当日に松原美之消防庁消防研究センター所長から表彰状と盾が授与されました。

「SHIRASAGI」は、役割・機構が全く異なる3機のロボットが連携して救助するというコンセプトで製作されたもので、受賞理由としては、独創的な技術により要救助者個人情報識別率を向上させた点、ロボットアームを正確に遠隔制御する「マスター・スレーブ制御」の導入により要救助者に負担を与えない“優しい”救助を実現した点などが高く評価されたものです。



兵庫県立大学 ロボット研究会（消防庁長官賞受賞）
前列右から、土井智晴レスキューロボットコンテスト実行委員長、
松原美之消防研究センター所長

コンテスト当日の詳細については、
レスキューロボットコンテスト公式ホームページ
<http://rescue-robot-contest.org/index.html>
を参照ください。